

サーキット・ライダー 2004年 3月

十字架から愛

愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。愛は決して滅びない。

コリントの信徒への手紙一 13：4－8.

ここアメリカでは苦難節の始まりを告げる「灰の水曜日」から封切になった映画「P a s s i o n」（キリストの受難）が色々な意味で話題になっています。この映画はキリストがゲッセマネの園で祈っているところから始まり、ユダの裏切りで捕らえられ、鞭打たれ十字架につけられ落命する様を描いています。その余りにも凄惨な拷問シーンが批判されたり、メル・ギブソンというハリウッドのスターがプロデュースしている為、聖書の信仰が描かれていないと言われたり、またユダヤ人やローマ人の描き方が余りにも人間臭く醜く、ユダヤ人から「反ユダヤ感情を煽る」と抗議を受けるなど封切前から話題を呼びました。

パークリッジでもカトリックの神父、プロテスタントの牧師、ユダヤ教のラバイが集まり、その内容について勉強会をし、ここアメリカで今クリスチャンやイスラム教徒と共に生きているユダヤ人市民に民族差別や宗教による偏見が持たれないようにすることの意義を再確認し理解を深めました。歴史の中で多くのユダヤ人がキリスト教徒の差別偏見で迫害されましたが、ヒットラーの死以降、世界はキリスト者の懺悔と謝罪、ユダヤ人のキリスト者への赦しを経験し歩み寄りました。勿論、まだ人種差別をする愚かな人々はいますが、今や少なくともアメリカやヨーロッパにおいては「共存共栄」を意識し歩むことが私達の使命です。それは今を大切に生きることであり、同じ過ちを繰り返さないこと。また過去への謝罪とは、共に生きているユダヤ教徒やイスラム教徒他と助け合って生きること。すなわち互いに受け入れあい、赦し、同じ過ちを繰り返さないで、理想に向かって生きる。これが真の謝罪であり赦しであり「神の国」です。

友人のユダヤ教ラバイが映画を見た後「この映画を見ても、ちゃんとした信仰に立っている人(クリスチャン)は反ユダヤ感情を持つことはない。でも元々 {人を裁く人達} や {反ユダヤ人感情} を持っている人達は、その思いを増すかもしれない。」とコメントしていました。私も映画を見て「なるほど彼の言う通りだ。」と思いました。元々人を裁くような人達は、どんなことでもそれを肯定するのに利用するだろうから、この映画もそういうふうに使われるかもしれない。その危険性は大いにある。と同時に、私はクリスチャンの立場からこの映画を見て「キリストの十字架の意味とは？」と改めて問いかけてみました。そこには従来どおり、罪の赦し、過ぎ越しの子羊の血による贖いの意味があるのは勿論ですが、今回は不思議なことに冒頭の使徒パウロの言葉が頭をよぎりました。

このコリント人への手紙一の13章は「愛の章」と呼ばれ、結婚式に必ず読まれる箇所です。それが何故、十字架の苦難の解釈に用いられるのでしょうか。答えはいたって明瞭。それは神が愛だからであり、キリストは十字架の苦しみの中にあってさえ、「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。」(ルカ 23：34)と自分を裏切った者達、殺す為に鞭打ち、十字架に掛けた者達を赦したからです。いったい誰がこのように自分を裏切り、殺そうとする者を赦せるのでしょうか。正直言って私のような愚かで自分勝手な人間にはとてもできません。総じて人間は、人と仲たがいはしては相手を悪く言い、「裏切られた」と言っては人を恨み、自分が悪くても相手のせいにする、常に不平不満を並べる罪深い存在です。でいながら自分は正しいと思っている。

しかしキリストはその深い愛の故にすべてを忍び、そんな愚かな人間をも「生まれ変わるができる」と信じて下さいました。その愛ゆえに、私達、人間の罪の赦しを神に乞い、十字架の上に命を差し出した。イエスの死を目撃した人、イエスと一緒に十字架に掛かった罪人の一人やローマの百卒長はその「愛」に触れ回心を経験しています。だからこそ「神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。」(フィリピ 2：9.) これもパウロの言葉ですが、イエスの愛こそが十字架上の赦しであり、その愛は更に復活という出来事によって具現化し永遠に人の心に刻まれまたした。それはパウロの「愛は滅びない」という確信になりました。私もこの何物にも代えることのできない「愛」を我が物にできたらとイエスに願い求めて止みません。皆様、どうぞ実り多き苦難節そして素晴らしい復活祭をお迎え下さい。

吉松 純

***礼拝は午後４時から。Jr.教会（教会学校）も４時からです。子供達は初め大人の礼拝に出席し分級に移ります。**

***聖日予定：**

- ３月　７日：礼拝、聖餐式、
　　１４日：礼拝、午後５時より。司会：荒美俊三兄
　　２１日：礼拝。
　　２８日：礼拝、司会：荒美和子姉、
４月　４日：棕櫚の聖日礼拝、聖餐式。夏時間で時計が１時間早まります。お間違えのないように。
　　１１日：復活祭礼拝、礼拝後、持ちよりで祝会。エッグ・ハント

***集会、行事予定と報告**

- *１０日（水） 午後７時３０分より聖書研究会。教会日本語オフィス。旧約聖書、歴史書。
*１６日（火） 聖書の学び。Fort Lee Bethany 合同メソジスト教会（パリジェンヌから２ブロック）
で午前１０時３０分より。親と子(特に母子)をテーマに学びます。
*２６日（金）午前１０時３０分より聖書の学び。牧師館にて。

***苦難節のプログラム、**

- *毎週木曜日、午後６時より英語のプログラム、パンとスープの夕食と聖書の学びがあります。毎週ゲストをお迎えし「証し」を伺います。どうぞおいで下さい。
　　１１日、ポールセン・ラジャリガム牧師、「インドにおけるキリスト教と苦難。」
　　１８日、ハワード・シュタイナー牧師、「貧しい人たち、マイノリティーの人たちへの伝道。」
　　１５日、ジョージ湯沢兄、「日系人の苦難。強制収容所体験と戦後。」
*４月　１日、レネ・ヨン・パーク牧師、「アメリカにおける韓国人としてまた女性の立場から苦難を語る。」

***受難週・聖なる週の特別礼拝**

- *４月　８日、洗足の木曜日・聖木曜日礼拝。午後７時３０分より。ウエストウッド合同メソジスト教会にて。礼拝(英語)にて最後の晚餐を劇化します。
　　９日、聖金曜日礼拝。午後７時３０分より。パークリッジ合同教会にて。松尾孝恵姉のスピリチュアル・ダンス、特別音楽、タナブレイ（ロウソク消灯）礼拝。

***御協力お願い致します。**

- *ハーベスト・タイム放映の為、献金、お祈りのご協力をお願いいたします。
*使用済み切手を集めています。ご協力下さい。消印のついた切手の周り１センチくらいの余白を残して切とって下さい。切手は日本キリスト教海外医療協力会（J O C S）に送ります。J O C Sは切手を換金し得られた収益金で海外に医療関係者を送ると共に医療関係者の育成をしています。
*H O P E（The Heart of Pediatric Electrophysiology）というボランティア団体にもご協力下さい。
Electrophysiology という特有の心臓病を患う子供を救う為、寄付金を募り患者や家族に送ったり、病院などの情報交換をしています。募金を下さる方はあて先をH O P Eとしてください。
*昨年末よりケニヤの恵まれない子供達やエイズに苦しんでいる人達の為に特別献金を始めました。ご協力下さいますようお願いいたします。

***料理伝道の野木朗牧師が中華料理のレシピを私達の教会に沢山下さいました。**

皆様にもその美味しい料理のレシピを分かち合いたく同封します。ご利用ください。

連絡先：英語オフィス（２０１）３９１－５４９９　日本語及びファックス（２０１）５０５－０３４７　ホームページ：<http://umc-japan.org>

吉松牧師宅　（２０１）３９１－２２０８ pastor@umc-japan.org

教会学校担当：松尾孝恵姉　（２０１）８０２－１７６９ takae723@hotmail.com

実り多きレント苦難節と良い復活祭をお迎え下さい。